



令和5年度の脱炭素の取組について

ゼロカーボンシティ推進課

(1) 脱炭素型ライフスタイル(デコ活)の普及促進

(2) 地域脱炭素の推進(脱炭素先行地域の検討)

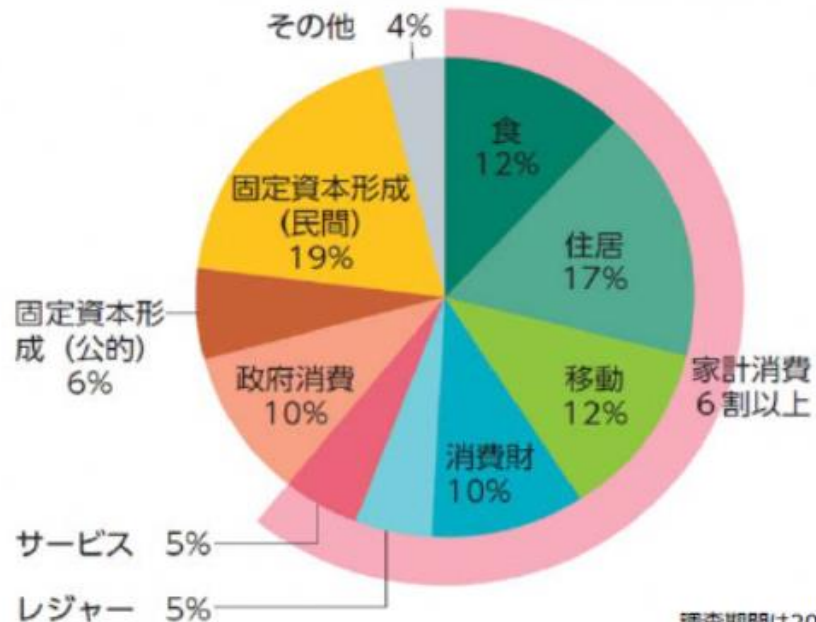
(3) 市役所の脱炭素化

脱炭素型ライフスタイルについて

ライフスタイル転換の必要性

- CO2排出の約6割はライフスタイルに起因。

消費ベース（カーボンフットプリント）から見た
我が国の温室効果ガス排出量



調査期間は2015年1月～12月
令和2年度版環境白書より

ゼロカーボンシティ実現には
市民のライフスタイル（生活様式）の
転換が重要



気候変動への影響を小さくする
脱炭素型ライフスタイルの実践を
促進（「デコ活」）

デコ活の全体像（脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの絵姿）

○ 今から約10年後、**生活がより豊かに、より自分らしく快適・健康**で、そして2030年温室効果ガス削減目標も同時に達成する、新しい暮らしを提案をします。



※新しい暮らしの根拠や数値のバックデータは、<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>から確認を。

脱炭素型ライフスタイル推進リーダー養成講座

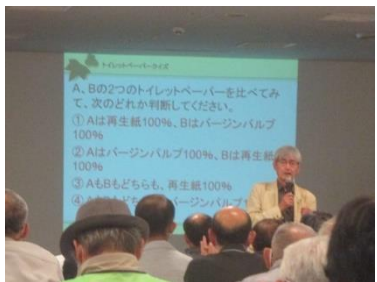
○海ごみ問題フィールドワーク×クラフト

海岸のごみ拾いを行った後、自分で拾った海岸漂着物でフォトフレームづくりに挑戦したり、海ごみ問題についての講話を聞き、親子で楽しみながら学べるイベント（8月11日）



○講演会「家庭から始めるごみ減量と3R」

「デコ活」の中でも、身近で取り組みやすいごみの減量やリサイクルについて、専門家を招き講演（10月29日）



<開催予定の講座>

○講演会「海ごみ対策の現場から考えた脱炭素型ライフスタイルのすすめ」

高松市ゼロカーボンシティ推進アドバイザーの森田桂治さんによる、海ごみ対策の実践的知識から学ぶ講演会（2月22日予定）



○「2050カーボンニュートラル」カードゲームで脱炭素行動を学ぼう



参加者がチームに分かれて、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けた行動をゲームでシミュレーションする体験型イベント（2月28日予定）

ゼロカーボンスタンプラリーたかまつ

香川県内で展開している地域ポイントアプリ「マイデジ」を活用して、脱炭素に取り組んでいるお店などを巡り、脱炭素に関するクイズに答えてスタンプを集めると、抽選でIruCa 500円分が当たるデジタルスタンプラリーを開催

イベントの趣旨

- ・デジタル技術を活用した「デコ活」を推進する
- ・街歩きを楽しみながら脱炭素について学習することができ、脱炭素行動の実践に一步踏み出すきっかけづくりとする
- ・スタンプラリーの拠点に公共交通機関の駅を設定するとともに、ラリー達成者に電車などで使えるチャージ券をプレゼントすることで、二酸化炭素の排出が少ない公共交通機関の利用促進につなげる



高松市役所正面玄関前給水スポットの設置

2023年6月19日、市役所正面玄関前に給水スポットが誕生しました！



マイボトルに24時間誰でも無料で給水可能
使い捨てペットボトルの使用を削減

- ▶ 屋外据付型非接触（センサー）式
→ 四国初
- ▶ クラウドファンディングにより
資金調達、NPO法人からの寄贈
→ 全国初

高松市役所正面玄関前給水スポットの設置

オープニングセレモニーとPRイベントで給水スポットを盛り上げる！



6月19日 市長とNPO法人アーキペラゴ理事長による除幕などを含むオープニングイベントを実施！

初日から多くの方がマイボトルでの給水を体験し、冷たい水のおいしさをPRしていただきました。

9月9日 市役所前給水スポットを起点とした「高松オアシスロゲイニング大会」を開催。選手たちは、市内の「水」に関するチェックポイントをまわり、給水スポットへの親しみや、マイボトルの普及について更に意識を高めました。（脱炭素型ライフスタイル推進モデル事業）



高松市役所正面玄関前給水スポットの設置

利用状況



○昨年6月19日の稼働開始後、
8か月で約43,000回給水を達成！

○平日は、来庁される市民の方や、市職員の利用が多数。

○休日には、ウォーキングやサイクリングで市役所前を通行する方々が利用。

○屋外常設型ということで、市役所閉庁時にも給水可能なところから、熱中症対策としての効果も期待。

(1) 脱炭素型ライフスタイル(デコ活)の普及促進

(2) 地域脱炭素の推進(脱炭素先行地域の検討)

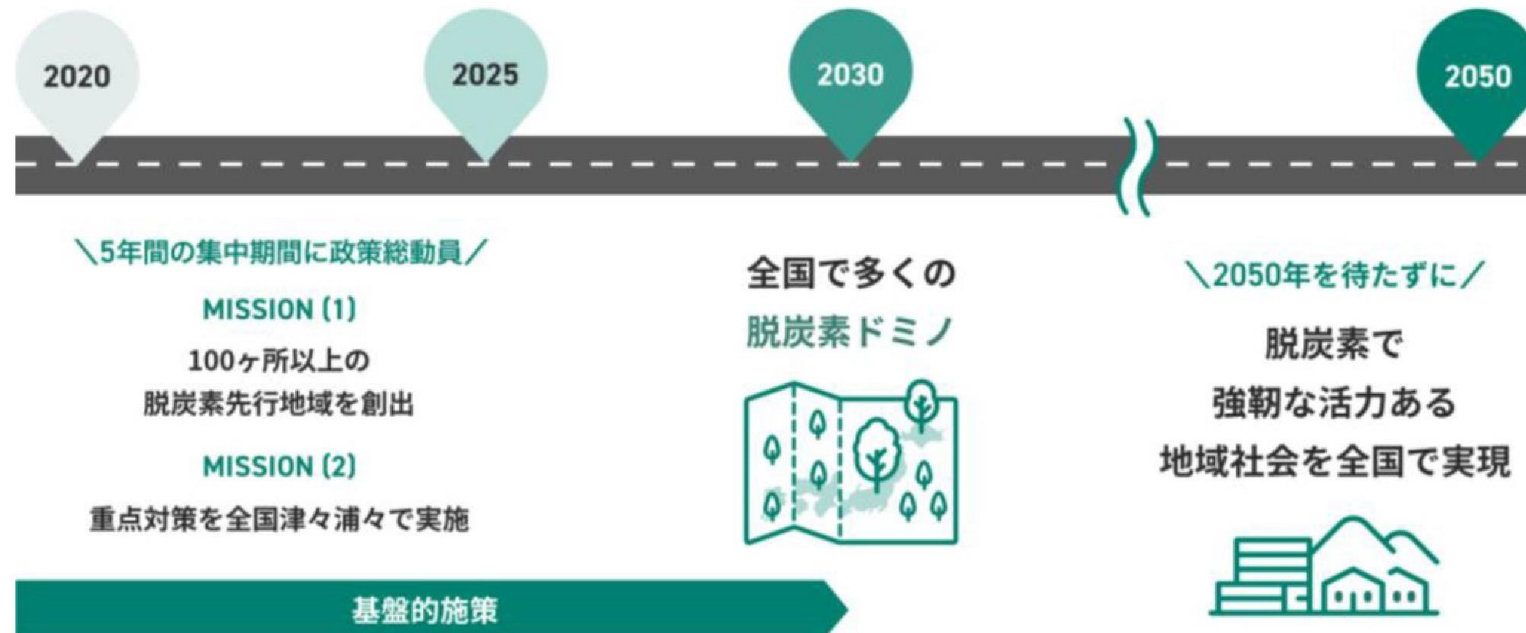


(3) 市役所の脱炭素化

国が目指す地域脱炭素ロードマップ

地域脱炭素は、地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に貢献

- ① 一人一人が主体となって、今ある技術で取り組める
- ② 再エネなどの地域資源を最大限に活用することで実現できる
- ③ 地域の経済活性化、地域課題の解決に貢献できる



脱炭素先行地域の取組

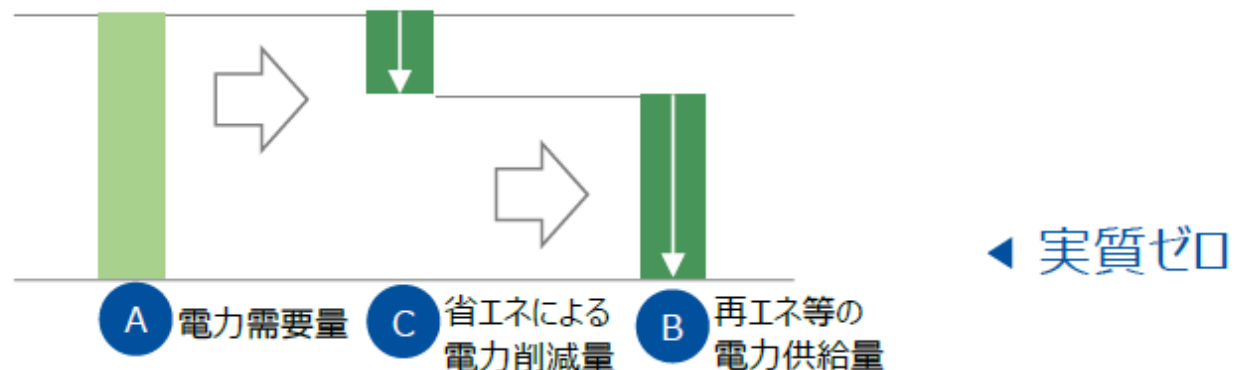
民生部門(家庭部門及び業務その他部門)の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めてその他の温室効果ガス排出削減も地域特性に応じて実施する地域
→ 環境省が全国100地域以上の選定を目指している

ポイント1 地域内の民生部門電力に係るCO2排出実質ゼロ

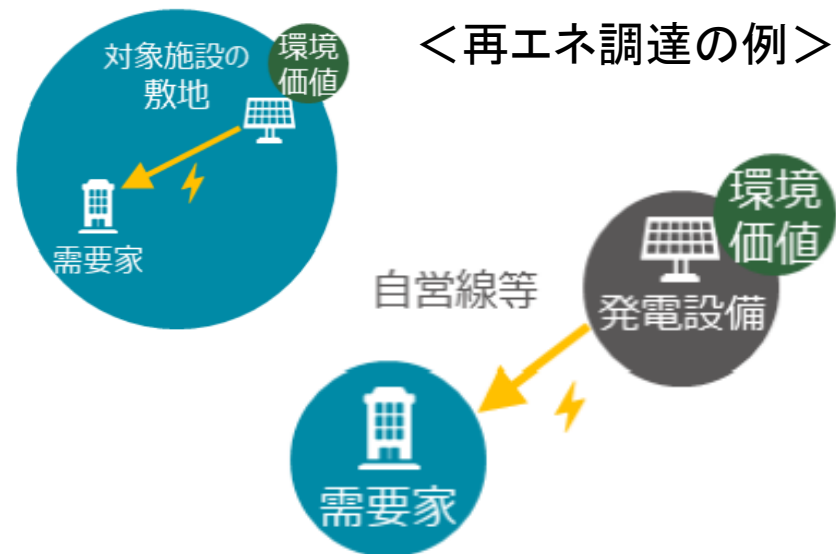
$$\text{A 民生部門の電力需要量} = \text{B 再エネ等の電力供給量} + \text{C 省エネによる電力削減量}$$

※固定価格買取制度 (FIT 制度) を利用して発電・売電される電力を脱炭素先行地域内で消費する場合は、環境価値が付加された状態で調達されたものを除き「再エネ等の電力供給量」には含みません。

▼CO2 排出実質ゼロのイメージ

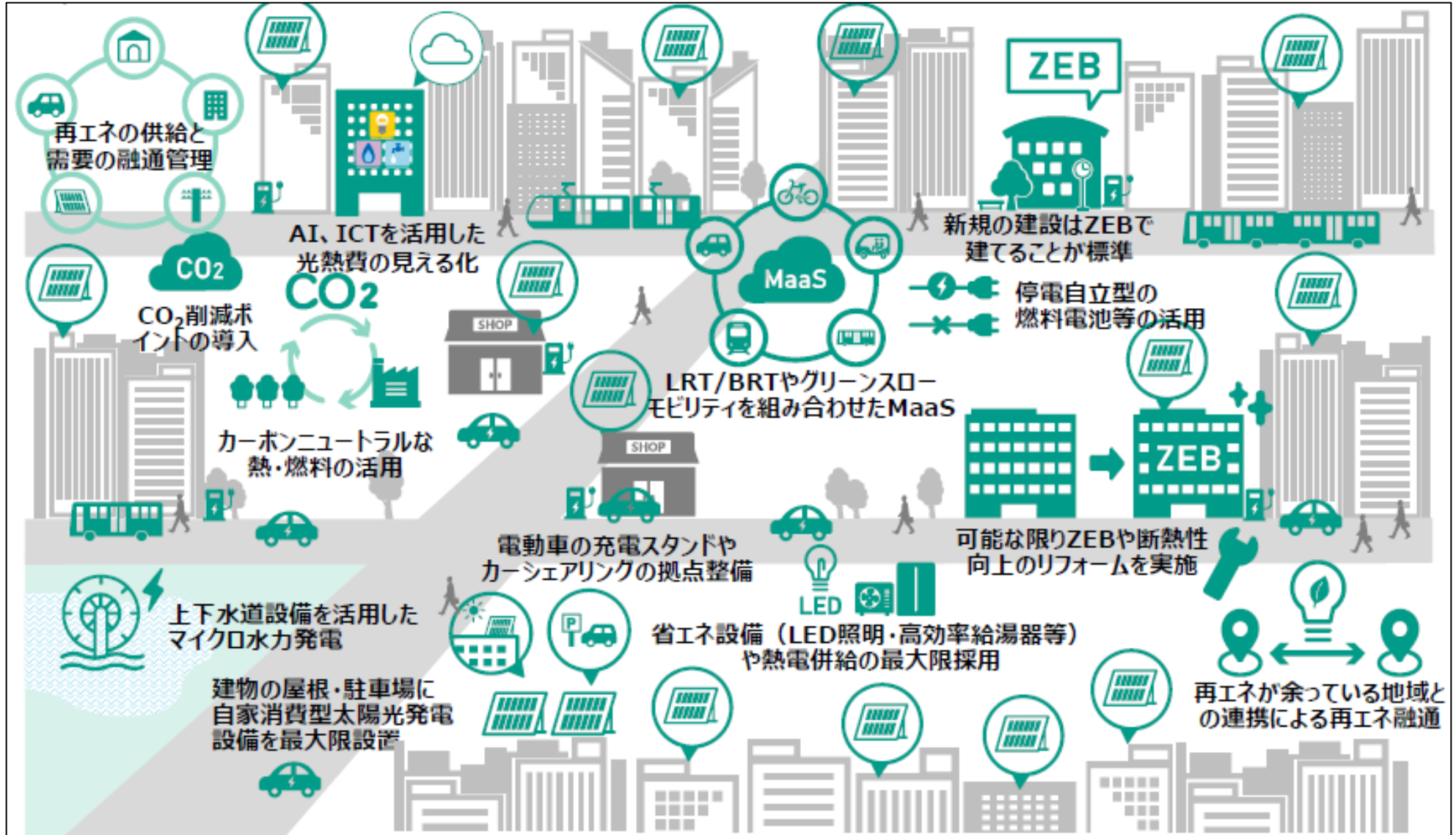


<再エネ調達の例>



ポイント2

様々な再エネ・省エネ等の脱炭素化のアプローチを通して、地域課題の解決を目指す。



ポイント3	脱炭素先行地域に選定された自治体は、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金による支援が受けられる。
-------	--

<交付金の概要>

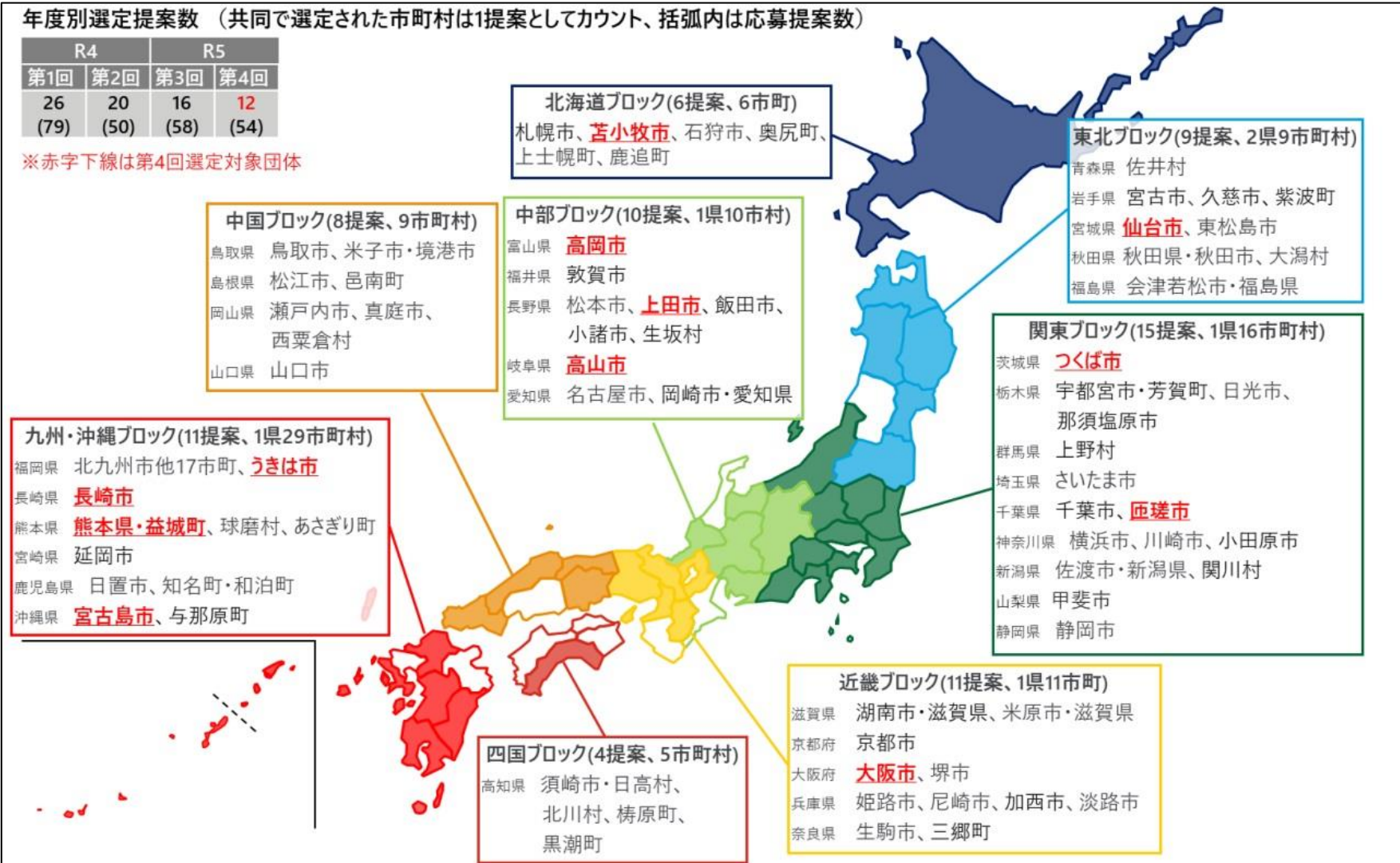
交付要件	脱炭素先行地域に選定されていること
対象事業	<p>(1)CO2排出削減に向けた設備導入事業(①は必須)</p> <p>①再エネ設備整備(自家消費型、地域共生・地域裨益型) 地域の再エネポテンシャルを最大限活かした再エネ設備の導入</p> <p>②基盤インフラ整備 地域再エネ導入 利用最大化のための基盤インフラ設備の導入</p> <p>③省CO2等設備整備 地域再エネ導入 利用最大化のための省CO2等設備の導入</p> <p>(2)効果促進事業 (1)の事業と一体となって設備導入の効果を一層高めるソフト事業等</p>
交付率	原則 2/3 (交付限度額 1計画当たり50億円)
事業期間	概ね5年程度

第4回募集まで: 74提案が選定された



香川県内の自治体はまだ選定されていない
(四国では高知県内の4提案が選定)

中核市として、地域脱炭素化をけん引する立場で脱炭素先行地域に挑戦することが求められる



高松市の 目指す脱炭素先行地域の構想

高松市の「顔」として生まれ変わろうとしている

サンポート高松を中心とした脱炭素モデルの創出

高松市
の特性

- 災害が少なく
日照時間が多い
温暖な気候
- ため池やうどん等の
豊かな郷土色
- 行政機関や公共交通が
集約した中核都市
- 世界から注目が集まる瀬戸内海・瀬戸の都



先行地域検討対象エリア (サンポートエリアを中心とした港湾関連エリア)

エリアの
優位性

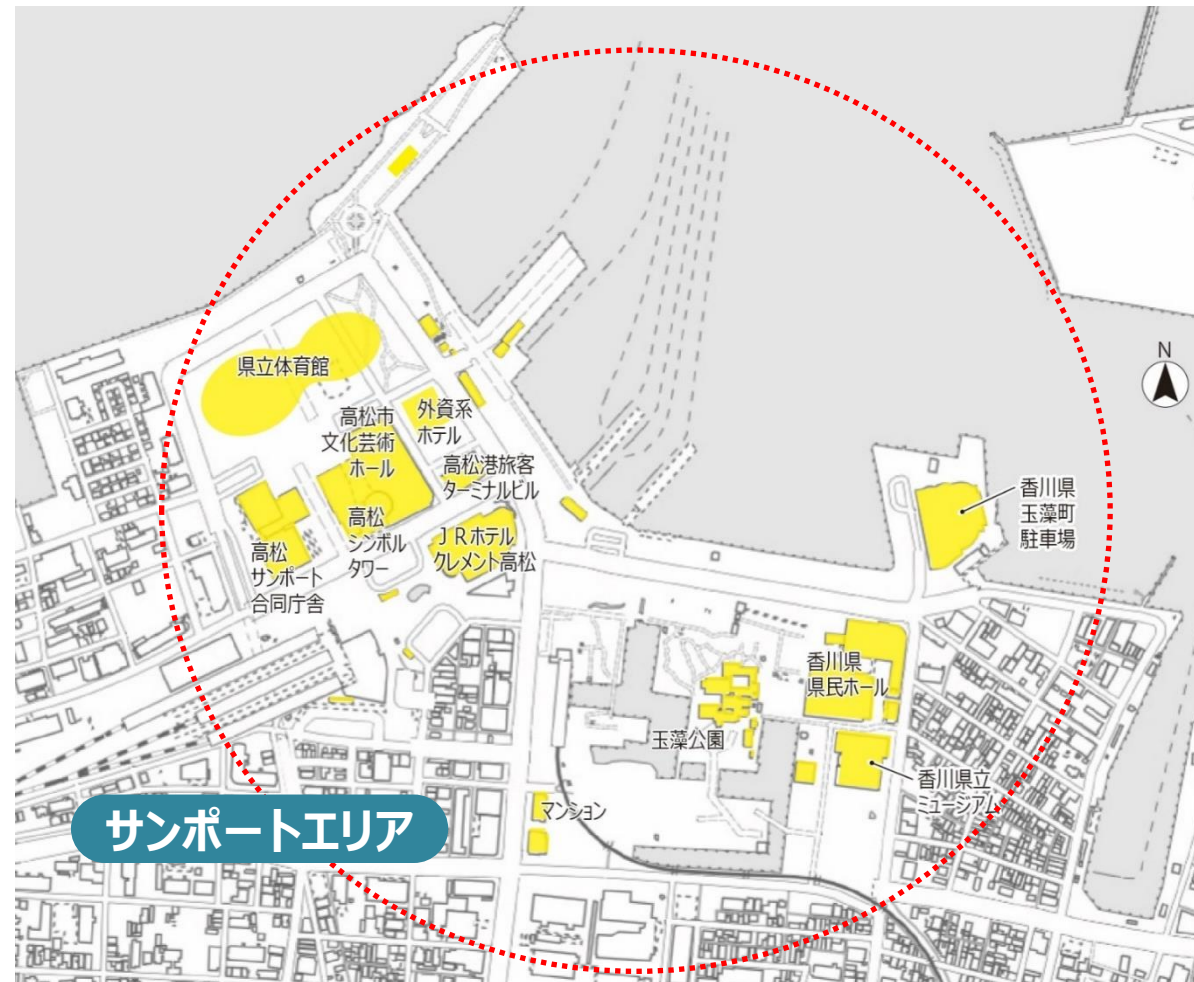
G7都市大臣
会合開催地
としてのアピール性

交通の中心地
としての拠点性

高松市の「顔」
としてのインパクト

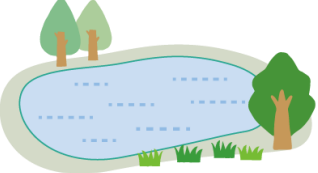
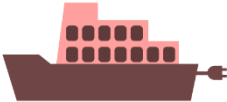
他の政策分野の
取組みとの
連携可能性

瀬戸内海の豊かさ
を守る取組みとの
親和性



サンポートエリア

地域特性に応じた脱炭素の取組

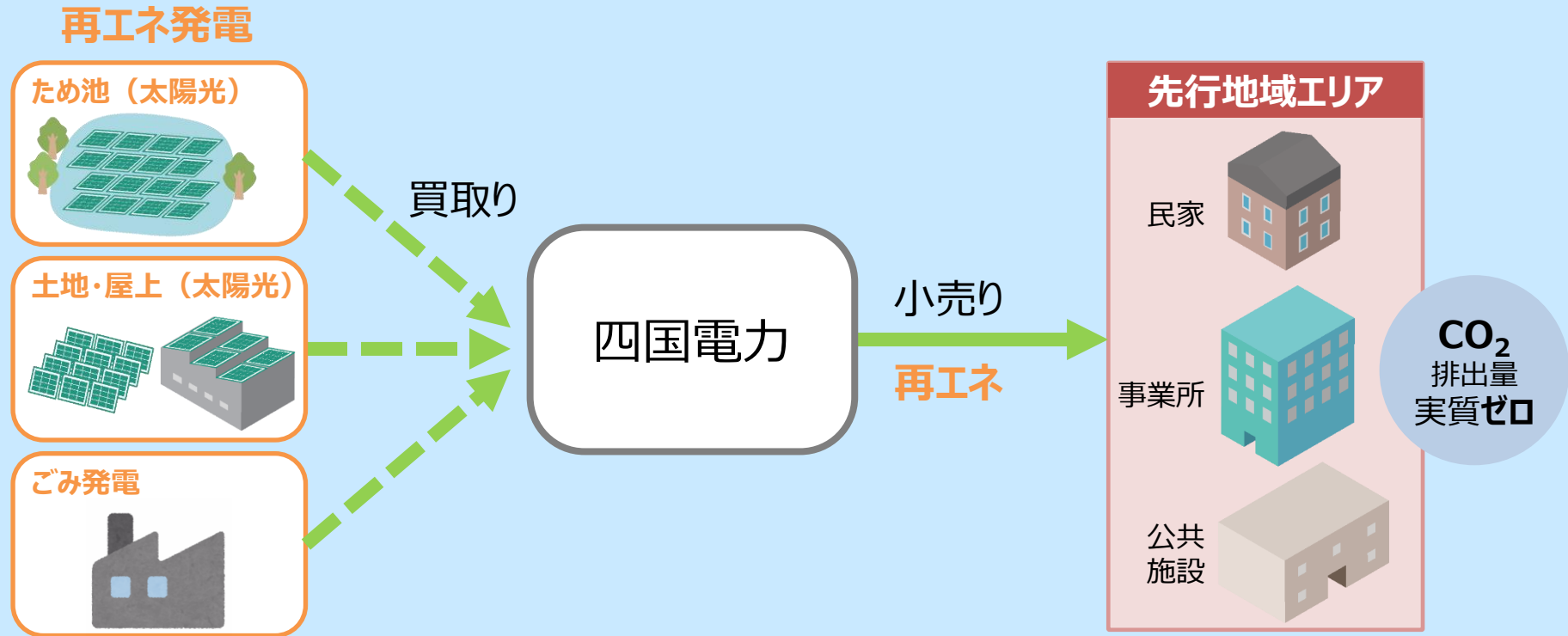
特性	災害の少ない 温暖な気候 豊富な日射量	まちづくり サンポート・中心市街地 活性化と観光振興
<p>↓</p> <p>脱炭素 の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ため池への太陽光発電の導入 ○蓄電池の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○EVバスなど低炭素の移動手段の導入 ○建物の省エネ化の推進 ○EV船の導入、観光との連携 
<p>↓</p> <p>地域へ の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ため池管理に係る地元の費用負担の軽減 ○非常時の電源としての活用も視野に入れる 	<ul style="list-style-type: none"> ○GX（グリーントランスフォーメーション）に向けたサンポートの活性化 ○国内外からのグリーンツーリズム推進

高松市の脱炭素将来ビジョン



市と四国電力グループが協力して検討

＜検討中の取組例＞



- 事業の中心的な枠組みは、四国電力グループと協力して検討中
- 令和6年6月に予定されている第5回募集への応募を目指す

(1) 脱炭素型ライフスタイル(デコ活)の普及促進

(2) 地域脱炭素の推進(脱炭素先行地域の検討)

(3) 市役所の脱炭素化



太陽光発電設備の導入可能性調査

概要

- ・ 環境省の補助事業を活用して、太陽光発電設備を未設置の市有施設への導入可能性を調査
- ・ 全353施設から、施設規模や電力需要などのデータを基に絞り込み、現地調査により導入可能施設を選定

結果

- ・ 5施設で約250kWを導入可能とする調査結果
- ・ 調査結果に基づき計画的に太陽光発電設備の整備を進める

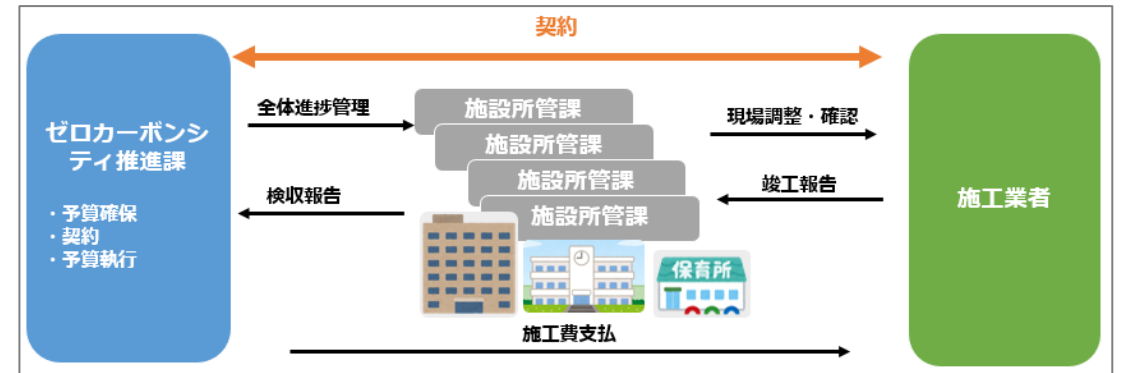
公用車への電気自動車の導入

- ・ 令和5年度 新規7台導入
(合計9台→16台)
- ・ 今後、公用車を活用したカーシェアリングについても検討予定



照明のLED化

- ・ 市有施設の屋内照明のLED化を検討
- ・ ゼロカーボンシティ推進課で一括して調整し、契約することで事務を効率化



エコシティたかまつ環境マネジメントシステムの見直し

- ・ 国の機関のCO2削減目標を踏まえたシステムの見直しを検討中
- ・ 今年度中に改定素案を作成し、来年度の早い時期に改定を目指す